授業科目名： 衛生学及び公衆衛生学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 中村　哲 担当形態： 単独

科　目	養護に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

本授業の到達目標はヒト集団の健康が自然環境や集団が作り出した社会環境とのせめぎ合い通じて成り立っていることを理解し、どのようにして地域に住む人々の健康と安心・安全な生活を維持・擁護するかについての基礎的視点を身に着けることである。授業では主に人間と環境および保健管理を主題とする。

授業の概要

公衆衛生とは平たく言えば「みんなの健康」ということである。私たち一人一人の健康は個人的な健康の配慮という「個人衛生」ばかりではなく、私たちが生活する地域社会や自然・地理環境に影響を受けて成り立っている。そのようなマクロ的環境を論じると同時に、今日の日本国内の生活で問題となっている非感染症疾患である生活習慣病や癌や、新興・再興感染症の疫学的実態の解説及びそれらの疾患の予防対策について講義を行う。さらに「衛生」は私たちの「生命をあらゆる意味でまもる」ということから、社会保障・福祉活動が公衆衛生につながることへの理解を促す。

授業計画

第１回：公衆衛生の概要
第２回：予防医学と健康増進
第３回：集団の健康レベルの指標
第４回：人口統計と健康
第５回：死因と寿命
第６回：疫学の考え方とその方法
第７回：主要な感染症の疫学とその発生動向
第８回：主要な非感染症の疫学とその発生動向・予防
第９回：自然環境と地域の生活
第１０回：人間生活と社会環境科学
第１１回：保健管理論
第１２回：母子保健と学校保健
第１３回：産業保健と老人保健
第１４回：家族と地域保健

第１５回：社会保障制度と衛生学 定期試験
テキスト 　石川哲也、他5名『イラスト公衆衛生学』最新版、東京教学社
参考書・参考資料等 　鈴木庄亮監修，小山洋・辻一郎 編集『シンプル衛生公衆衛生学』最新版，南江堂；中島　泉 『医学概論』最新版　南江堂；厚生の指標臨時増刊『国民生成の動向』最新版，厚生統計協会
学生に対する評価 　試験70％、授業中での小テスト・感想文20％、受講態度10％により行う。必要に応じてレポートを課す。

授業科目名： 衛生学及び公衆衛生学演習	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 中村　哲
			担当形態： 単独

科　目	養護に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

本演習テーマは授業計画に示した通りであり、全体の到達目標はヒト集団の健康が自然環境や集団が作り出した社会環境とのせめぎ合い通じて成り立っていることを理解し、説明ができる事である。また、各テーマに則し、どのようにして地域に住む人々の健康と安心・安全な生活を維持・擁護するかについての基礎的視点をも理解し、説明ができることである。

授業の概要

学生自身の健康と公衆衛生の定義を導入として、私たちの生活は地域社会や自然・地理環境に影響を受けて成立していることを理解する内容としている。そのようなマクロ的環境個人の健康を論じると同時に、今日の日本国内の生活で問題となっている非感染症疾患である生活習慣病や癌や、新興・再興感染症の疫学的実態の解説及びそれらの疾患の予防対策について演習を実施し講義の補完を行う。さらに社会保障・社会福祉の実践活動は私たちの「生命をあらゆる意味でまもる」という点で公衆衛生に繋がる事への理解を促す。

授業計画

第１回：個別の学生間での「健康」の定義と「みんなの健康」の定義を比較する。

第２回：健康のレベルの測定について統計をどのように使用するかを検討する。

第３回：病因と対策　I.　予防医学と公衆衛生：内因と外因について探査学習する。

第４回：病因と対策　II. 感染症の疫学について探査学習する。

第５回：病因と対策　III. 非感染症の疫学について探査学習する。

第６回：地球環境　I.　物理的・化学的環境について探査学習する。

第７回：地球環境　II. 身近な生物についての観察を行う。

第８回：地球環境　III. 身近な水環境の観察：上下水道施設見学、キットによる水質調査。

第９回：地球環境　IV. 環境汚染と公害問題について探査学習する。

第１０回：健康管理　I. 身体の仕組みを知る：呼吸・血液循環・消化はどのように関わるか。

第１１回：健康管理　II. 家庭内の衛生環境に関わる問題点と予防に関わる探査学習。

第１２回：健康管理　III.　職業と健康に関わる問題点と予防に関わる探査学習。

第１３回：社会保障と社会福祉は公衆衛生とどのように関わっているのかを探査学習する。

第１４回：各自が選択した学校保健統計の特定テーマについての探査学習。

第１５回：上記の演習に関わる学生各自のトピックを発表する。 定期試験
テキスト 石川哲也、他5名『イラスト公衆衛生学』、東京教学社、2014年
参考書・参考資料等 鈴木庄亮監修，小山洋・辻一郎 編集『シンプル衛生公衆衛生学』最新版，南江堂，2017； 中島　泉 『医学概論』南江堂，最新版；厚生の指標臨時増刊『国民生成の動向』最新版， 厚生統計協会
学生に対する評価 授業態度（20点）と演習に関わるレポート(60点)、15回目の発表(20点)を評価対象として 採点する。

授業科目名： 学校保健	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 寺西明子、岡本陽子 担当形態： 複数

科　目	養護に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	学校保健

授業のテーマ及び到達目標

学校保健と学校における児童生徒の健康課題について理解を深めることである。そのためにどのような取組が必要なのかを自ら考えられるようにすることが最終目標である。

授業の概要

学校保健における保健教育、保健管理の実際とその方法を学び、今日的児童生徒の健康課題を理解し、必要な支援及び指導の方法を学習する。

授業計画

第１回：学校保健の意義と構造について（担当：岡本陽子・寺西明子）
第２回：学校保健に関わる法律、学校保健に関わる職種（担当：岡本陽子・寺西明子）
第３回：子どもの発育・発達について（担当：岡本陽子・寺西明子）
第４回：健康診断の重要性について（担当：岡本陽子・寺西明子）
第５回：子どもの健康実態と慢性疾患について（担当：岡本陽子・寺西明子）
第６回：感染症とその予防、感染症対策について（担当：岡本陽子・寺西明子）
第７回：心の健康問題とその対応について（担当：岡本陽子・寺西明子）
第８回：性の教育、がん教育について（担当：岡本陽子・寺西明子）
第９回：特別支援を要する児童生徒について（担当：岡本陽子・寺西明子）
第１０回：学校の環境衛生について（担当：寺西明子・岡本陽子）
第１１回：保健教育―保健学習について（担当：寺西明子・岡本陽子）
第１２回：保健教育―特別活動における保健指導について（担当：寺西明子・岡本陽子）
第１３回：保健教育―個別指導や日常の生活での指導について（担当：寺西明子・岡本陽子）
第１４回：喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育について（担当：寺西明子・岡本陽子）
第１５回：保健指導について模擬授業の実施（担当：寺西明子・岡本陽子）
定期試験

テキスト

最新学校保健（岡本陽子編、ふくろう出版）

参考書・参考資料等①学校保健ハンドブック（教員養成系大学保健協議会編、ぎょうせい）
②児童生徒の健康診断マニュアル（日本学校保健会）、適宜資料を配付する。

学生に対する評価

定期試験（５０％）、課題レポート（２０％）、授業中の課題発表（３０％）

授業科目名： 養護概説	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 寺西明子、大野泰子 担当形態： 複数

科　目	養護に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護概説

授業のテーマ及び到達目標

専門職としての養護教諭の職務に必要な知識を深めることを到達目標とする。

授業の概要

「養護概説」とは、養護教諭の実践の基礎となる養護の概念を理解し、学校教育に果たす専門職としての養護教諭の役割や職務について学ぶ授業である。

授業計画

第１回：養護教諭の歴史と養護教諭の職務について（担当：大野泰子・寺西明子）
第２回：養護教諭・学校保健に関する法規について（担当：大野泰子・寺西明子）
第３回：児童生徒の現代的な健康課題について（担当：寺西明子・大野泰子）
第４回：保健室経営、保健室の機能について（担当：寺西明子・大野泰子）
第５回：健康観察の意義や方法について（担当：大野泰子・寺西明子）
第６回：定期健康診断について（担当：寺西明子・大野泰子）
第７回：アレルギー疾患への対応について（担当：寺西明子・大野泰子）
第８回：感染症の予防について（担当：寺西明子・大野泰子）
第９回：健康教育における保健教育と保健指導について（担当：寺西明子・大野泰子）
第１０回：健康相談の考え方、相談体制づくりについて（担当：寺西明子・大野泰子）
第１１回：学校における事故の対応について（担当：寺西明子・大野泰子）
第１２回：学校安全と危機管理について（担当：寺西明子・大野泰子）
第１３回：学校環境衛生活動について（担当：大野泰子・寺西明子）
第１４回：保健組織活動（学校保健委員会）について（担当：寺西明子・大野泰子）
第１５回：家庭・地域・専門機関等の関係機関との連携（担当：寺西明子・大野泰子）
定期試験

テキスト

学校における養護活動の展開（津島ひろ江編、ふくろう出版）

参考書・参考資料等

学校保健実務必携（第一法規）、適宜資料を配付する。

学生に対する評価

定期試験（５０％）、課題レポート（２０％）、授業中の課題発表（３０％）

授業科目名： 健康相談活動	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 岡本陽子、寺西明子
			担当形態： 複数

科　目	養護に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法

授業のテーマ及び到達目標

「養護教諭の相談活動において果たすべき役割」「児童生徒の心の問題の把握」「養護教諭の相談活動の進め方」をテーマとして、教育現場で児童生徒の心の問題に気づき、相談活動を実践できる知識技術を身につけ、力量形成を図る。

授業の概要

健康相談活動の構造を理解して、養護教諭の職務の特性と保健室の機能を子どもの心身の健康支援に活かす理論の構築と実践力の向上を目指すために、グループ討論と発表、演習、文献研究などを取り入れながら展開していく。その過程で自己理解･他者理解を高めるために相互評価を取り入れる。なお、「養護概説」の履修を前提とする。

授業計画

第１回：健康相談と学校教育（担当：岡本陽子、寺西明子）

第２回：健康相談活動の理論と発達理論（担当：岡本陽子、寺西明子）

第３回：健康相談活動の方法⑴自己理解（担当：岡本陽子、寺西明子）

第４回：健康相談活動の方法⑵自己理解（担当：岡本陽子、寺西明子）

第５回：健康相談活動の方法⑶他者理解（担当：岡本陽子、寺西明子）

第６回：健康相談活動の方法⑷他者理解（担当：岡本陽子、寺西明子）

第７回：健康相談活動とカウンセリング（担当：岡本陽子、寺西明子）

第８回：健康相談活動事例の捉え方とその対応ーアセスメントー（担当：岡本陽子、寺西明子）

第９回：健康相談活動におけるプロセスレコード（担当：岡本陽子、寺西明子）

第１０回：健康相談活動事例と演習⑴(心身症・不登校)　（担当：寺西明子、岡本陽子）

第１１回：健康相談活動事例と演習⑵(いじめ・虐待)　（担当：寺西明子、岡本陽子）

第１２回：健康相談活動事例と演習⑶(特別支援を要する児童生徒) (担当：寺西明子、岡本陽子)

第１３回：健康相談活動事例と演習⑷保護者（担当：寺西明子、岡本陽子）

第１４回：健康相談活動と関係医療福祉機関等との連携（担当：寺西明子、岡本陽子）

第１５回：健康相談活動の力量形成と研究　到達度確認（担当：寺西明子、岡本陽子）

定期試験

テキスト　養護教諭が行う健康相談活動（岡本陽子編著・ふくろう出版）

参考書・参考資料等　適宜資料を配付する。

学生に対する評価

定期試験（６０％）、授業態度（２０％）、小テスト（１０％）、課題レポート（１０％）

授業科目名： スポーツ栄養学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 鬼塚　純玲
			担当形態： 単独

科　目	養護に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	栄養学（食品学を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

栄養学の基礎的な知識を習得したうえで、競技スポーツにおける栄養・食事摂取について正しく理解する。また、食品学の専門的知識を踏まえて、健康の維持・増進や競技力向上を目指した食事の実践方法を習得する。

授業の概要

スポーツ選手における栄養は、生涯にわたる健康だけでなく競技力の向上やコンディショニング、怪我の予防にも大きく影響する重要な要素である。本講義では、基礎的な栄養学をはじめ、スポーツ選手に特有の栄養について学び、実際の競技生活や日常生活に活かすことができる知識を学ぶ。

授業計画

第１回：授業の概要と導入
第２回：食生活と健康運動（食品の栄養特性を含む）
第３回：消化と吸収の機構／エネルギー代謝
第４回：身体活動量の定量法とその実際
第５回：糖質・脂質の機能と代謝
第６回：たんぱく質の機能と代謝
第７回：ビタミン・ミネラルの分類と機能
第８回：水分摂取／サプリメント
第９回：栄養・食事の実際
第１０回：栄養・食事アセスメント
第１１回：栄養・食事指導の基本（食品の分類と機能性を含む）
第１２回：栄養・食事指導の実践
第１３回：ウエイトコントロール
第１４回：食事管理
第１５回：まとめと学修の振り返り
定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等 　授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 　試験（70%）、提出物（30%）

授業科目名： スポーツ生理学Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 森木　吾郎 担当形態： 単独

科　目	養護に関する科目
施行規則に定める 科目区分	解剖学・生理学

授業の到達目標及びテーマ

ヒトの身体の機能について理解する。また、それらと運動・スポーツの関係について理解する。さらに、トレーニングに伴う身体の機能的な変化及び適応について理解する。環境が各機能に与える影響について理解する。

授業の概要

スポーツ生理学とは、ヒトの身体の機能と運動・スポーツの関係について理解する科目であると同時に、あらゆる健康・運動指導における基礎的科目である。本授業では、呼吸器系、循環器系、脳・神経系、骨格筋系などの解剖学的構造、各機能と運動・スポーツの関係、及びトレーニングに伴う各機能の変化について解説する。また、環境が各機能に与える影響について講義する。それらの学習を通じて、ヒトの身体の機能について、またそれらと運動・スポーツの関係について、さらにはトレーニングに伴う身体の機能的な変化、及び適応について理解させることを目的とする。

授業計画

第１回：スポーツ生理学概論
第２回：骨格筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構
第３回：運動と筋線維タイプ
第４回：筋収縮の様式と筋力、筋の解剖学的構造
第５回：運動と呼吸器系（呼吸器系機能と調節機構）
第６回：循環器系の機能と解剖学的構造
第７回：運動と循環器系（トレーニングによる循環器系の適応）
第８回：脳・神経系の機能と運動の発現・制御
第９回：運動と脳・神経系（トレーニングによる脳・神経系の適応）
第１０回：運動とホルモン（内分泌系機能とそのはたらき）
第１１回：運動と免疫能
第１２回：水中運動における生理機能
第１３回：運動と環境（暑熱・寒冷・低酸素等の環境による生理機能への影響）
第１４回：発育発達と機能変化（成長に応じた運動・トレーニング）
第１５回：加齢と機能変化（中高齢者に対する運動処方）

テキスト 特になし。
参考書・参考資料等 健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト』
学生に対する評価 小テスト（80%）、レポート（20%）を評価対象として、総合的に評価する。

授業科目名： バイオメカニクスⅠ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 房野　真也 担当形態： 単独

科　目	養護に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	解剖学・生理学

授業のテーマ及び到達目標

①各器官の名称を覚え、機能を理解し説明できる。②運動・スポーツをバイオメカニクス側面から理解し説明できる。

授業の概要

身体運動や生物の構造を力学的な側面から解明する領域がバイオメカニクスである。本科目では、運動・スポーツ分野において必要な知識及び技能を身に付け、技術の向上や障害の予防に役立てるため、解剖学等の知識をもとに身体運動やスポーツ活動を力学的に理解することを目的とし、基本的事項を重視しながら幅広い分野にわたり講義を行う。さらに、それらの知識及び技能を活用し、身体運動やスポーツ活動の評価法について理解する。

授業計画

第１回：オリエンテーション及び解剖学用語、身体の構成の理解
第２回：筋の解剖学的構造と働き
第３回：身体運動と身体の解剖学的構造（骨）
第４回：身体運動と身体の解剖学的構造（関節、靭帯）
第５回：バイオメカニクスの基礎①（力の要素、ニュートンの運動の法則）
第６回：バイオメカニクスの基礎②（位置、速度、加速度）
第７回：バイオメカニクスの基礎③（トルク、パワー，エネルギー）
第８回：投射体の運動，運動と流体力
第９回：筋腱複合体
第１０回：着地衝撃と緩和法の理解
第１１回：スポーツにおけるバイオメカニクス（走動作，投動作，打動作）
第１２回：スポーツにおけるバイオメカニクス（水泳・水中運動）
第１３回：バイオメカニクスの活用法
第１４回：バイオメカニクスを用いた評価法
第１５回：バイオメカニクスと運動・スポーツ（学修の振り返り）
定期試験は実施しない。

テキスト

「健康運動実践指導者用テキスト」財団法人健康・体力づくり事業財団　南江堂

「スポーツバイオメカニクス20講」阿江通良ほか　朝倉書店　「スポーツ動作の科学」深代千之ほか　東京大学出版会
参考書・参考資料等 　特になし
学生に対する評価 　受講態度(10%)、小テスト(40%)、レポート内容(50%)を基に総合的に評価する。

授業科目名： 微生物学・免疫学・薬理概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 翠川　裕 担当形態： 単独

科　目	養護に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	「微生物学、免疫学、薬理概論」

授業のテーマ及び到達目標

感染症の病原体としての病原微生物と宿主の免疫および病原体制御の薬剤の薬理に関する知識を深める。

授業の概要

微生物、免疫、薬理の総論と各論とで構成する。

授業計画

第１回：微生物総論
第２回：細菌感染症各論
第３回：真菌感染症各論
第４回：ウイルス感染症各論
第５回：　原虫各論
第６回：新型コロナに対する対策
第７回：感染、病原体、宿主
第８回：免疫とは
第９回：ワクチン
第１０回：薬剤の歴史・総論
第１１回：麻酔薬・麻薬
第１２回：免疫抑制剤
第１３回：抗菌抗ウイルス薬
第１４回：新型コロナに対する対策薬剤最前線
第１５回：まとめ
定期試験

テキスト　世界を変えた微生物と感染症　著：左巻 健男　出版社：祥伝社
　休み時間のワークブック薬理学　柳沢輝行、小橋史

参考書・参考資料等　感染症の世界史（角川ソフィア文庫）　石 弘之　（著）

学生に対する評価　講義受講態度提出レポート（40%）および定期試験の点数（60%）

授業科目名： 精神保健Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 磯邉　省三
			担当形態： 単独

科　目	養護に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	精神保健

授業のテーマ及び到達目標

精神保健の歴史を学び、心身の健康保持、増進することを理解する。

授業の概要

メンタルヘルスが重要となってきた過程について説明し、精神の健康について基本的な考え方と精神保健学の役割について講義する。また、心理療法士やソーシャルワーカーの経験を活かし、実践での具体例を交え、理解しやすいようにする。

授業計画

第１回：精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要

第２回：精神保健の歴史と精神保健の課題

第３回：社会構造の変化と新しい健康観

第４回：ライフサイクルと精神の健康

第５回：ストレスと精神の健康、生活習慣と精神の健康

第６回：精神の健康、精神疾患、身体疾患に由来する障害

第７回：精神の健康に関する心的態度、精神保健に関する予防の概念と対象

第８回：精神保健に関する国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携

第９回：現代の日本の家族特徴、結婚生活と精神保健

第１０回：出産・育児をめぐる精神保健、社会的ひきこもりをめぐる精神保健

第１１回：病気療養と介護をめぐる精神保健、高齢者の精神保健

第１２回：家庭内の問題を相談する機関と精神保健福祉士の役割

第１３回：精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ

第１４回：子どもの自殺、学校における暴力、非行問題

第１５回：教職員の精神保健、関与する専門職と関係法規、学修の振り返り

定期試験なし

テキスト

最新精神保健福祉士養成講座　現代の精神保健の課題と支援　中央法規

参考書・参考資料等

精神保健入門　八千代出版、精神保健　北大路書房

学生に対する評価

ミニテスト（95%）、授業態度（5%）で評価する。

教科に関する科目：シラバス

授業科目名： スポーツ心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 武田　守弘 担当形態： 単独
科　目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	精神保健		

授業の到達目標及びテーマ

①スポーツ活動に伴って生じる人間の心的効果を理解する。

②スポーツ実践者に対する心理的サポートの必要性を理解する。

③スポーツが抱える臨床問題に対して、スポーツ心理学が貢献する可能性を理解する。

授業の概要

スポーツ心理学とは、運動と心を対等に両儀的に捉えて論じる学問である。運動をすることで私たちの心は変化する。また逆に、心境の変化が運動パフォーマンスをプラスの方向にも、マイナス方向にも変化させる。この授業では、運動やスポーツの実践過程を心理学的に解釈することから始め、運動が上手になる・楽しくなる環境や、そこでの行動変容について、さらには運動を継続することの意味や価値等についてもアプローチする。その中で、実践者の「やる気」や個人および集団の性質、技能向上のプロセスと練習方法・指導法を講義する。

授業計画

第１回：スポーツ心理学概論（スポーツと心理学に関する歴史的展開）

第２回：性格とスポーツ／スポーツに対する態度

第３回：スポーツにおける攻撃行動／スポーツ指導における暴力

第４回：スポーツ選手のバーンアウト／傷害における心理的サポート／競技者としてのライフプランニング

第５回：覚醒・不安・ストレス／メンタルトレーニング

第６回：動機づけとスポーツ

第７回：技能の体得

第８回：行動変容の理論

第９回：行動変容理論の実践的適用

第１０回：行動変容を意図したプログラム開発且ぴカウンセリング

第１１回：ストレスの考え方と評価法及びメンタルヘルス（精神保健）

第１２回：ストレスマネジメントとカウンセリング及びメンタルヘルスへの対処

第１３回：運動の健康行動（禁煙など）への影響

第１４回：状況判断を養うスポーツ行動への社会的影響

教科に関する科目：シラバス

第１５回：スポーツにおけるジェンダー論／競技心理 定期試験
テキスト 適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 特になし。
学生に対する評価 授業態度20%、レポート課題30%、そして定期試験50%により評価する。

授業科目名： 救急処置	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 櫻井　由佳 担当形態： 単独

科　目	養護に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

運動障害の予防、救急処置について理解し、実際の運動障害場面を想定し、救急処置技術を習得させる。

授業の概要

救急処置が必要な怪我・病気には、擦り傷程度の軽い怪我から重傷となる骨折、あるいは生死に関わる重度の急性疾患など、さまざまな疾患がある。本講義では、学生が普段遭遇する可能性の高い怪我・疾患について理解させ、その救急処置について解説する。特にスポーツ種目と怪我の特徴の関係、及び怪我への対処法について詳しく説明する。救急処置は頭の中で理解するのは当然であるが、実際にできてこそ価値あるものである。したがって、本授業では学内実習も組み込み救急処置技術を習得させる。

授業計画

第１回：救急処置と応急処置の概念と役割について理解する。

第２回：運動者の体調観察の方法　バイタルサイン測定および運動前後の体調観察法を理解する。

第３回：内科的応急処置①　発熱、頭痛、めまいと応急処置について理解する。

第４回：内科的応急処置②　呼吸困難を呈する疾患と応急処置について理解する。

第５回：内科的応急処置③　循環器疾患の症状・兆候と応急処置について理解する。

第６回：内科的応急処置④　腹痛、嘔吐、便秘、下痢と応急処置について理解する。

第７回：外科的応急処置①　創傷と止血法について理解し、止血法についてはそのスキルを習得する。

第８回：外科的応急処置②　頭部外傷及び意識障害と応急処置について理解する。

第９回：外科的応急処置③　打撲、捻挫、脱臼、骨折とRICE等の応急処置について理解する。

第１０回：三角巾固定法、テーピング技法　スポーツ障害に対する三角巾、テーピング技法について理解し、そのスキルを習得する。

第１１回：外因性障害の応急処置　凍傷、低体温症、熱中症の応急処置について理解する。

第１２回：中毒の応急処置　化学物質による中毒、自然毒食中毒等の応急処置について理解する。

第１３回：心肺蘇生法①一次救命処置　心肺蘇生法が必要となる病態の理解、蘇生法の方法の重要点を理解し、モデル人形で練習する。

第１４回：心肺蘇生法②一次救命処置（AED）　運動の場面を想定し、一次救命処置をシミュレーションした実習を行う（AED、モデル人形）。

第１５回：まとめと発表会　学生がテーマを選定し、想定できる事故の場面、状態の観察、対応方法、連絡方法、予防方法について発表し、グループディスカッションする。 定期試験
テキスト 一般財団法人救急振興財団（編）応急手当講習テキスト．東京法令出版
参考書・参考資料等 健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト』
学生に対する評価 ①授業態度（10%）②レポート課題（30%）③定期試験の成績（60%）

授業科目名： 基礎看護学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 寺西明子、大野泰子、 岡本陽子
			担当形態： 複数・オムニバス

科　目	養護に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

看護の概念や、養護教諭として必要な看護の基礎知識について理解することができる。

授業の概要

養護活動の基礎学問として理論を理解し、学齢期の子どもを中心とした対応や援助支援を学ぶ。テーマに沿った内容の講義から、養護教諭として重要な視点や見地を養う。

授業計画

第１回：オリエンテーション：看護の概念（担当：岡本陽子・大野泰子・寺西明子）
第２回：看護の歴史と看護理論：今日的看護の基本となる理論（担当：岡本陽子・寺西明子）
第３回：健康診断：健康診断の目的と意義（担当：寺西明子・大野泰子）
第４回：小児看護：乳児期幼児期、学童期の健康障害と看護（担当：大野泰子・寺西明子）
第５回：思春期看護：思春期の健康に関わる問題、二次性徴と看護（担当：寺西明子・大野泰子）
第６回：母性看護：母子保健対策とライフサイクルにおける健康問題（担当：寺西明子・大野泰子）
第７回：眼科疾患と看護（担当：寺西明子・大野泰子）
第８回：耳鼻咽喉科疾患と看護（担当：寺西明子・大野泰子）
第９回：皮膚科疾患と看護（担当：寺西明子・大野泰子）
第１０回：歯科疾患と保健指導（担当：寺西明子・大野泰子）
第１１回：成人看護：成人の健康障害の基礎知識と看護（担当：大野泰子・寺西明子）
第１２回：老人介護：加齢の特徴・疾患や介護（担当：寺西明子・大野泰子）
第１３回：地域看護：地域保健の目的の理解、公衆衛生看護活動（担当：大野泰子・寺西明子）
第１４回：障害のある児童生徒の理解と看護（担当：岡本陽子・寺西明子）
第１５回：学校における健康教育と健康相談（担当：岡本陽子・寺西明子）

テキスト

養護教諭のための看護学　四訂版（藤井寿美子他、大修館書店）

参考書・参考資料等

適宜資料を配付する。

学生に対する評価

定期試験は実施しない。適宜確認試験（７０％）、レポート提出（３０％）

授業科目名： 学校看護学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 寺西明子、岡本陽子、大野泰子 担当形態： 複数・オムニバス

科　目	養護に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

学校看護が、様々なライフステージにおける健康管理につながることを理解する。

授業の概要

看護の基本から、学校教育の場を背景にした教育支援としての学校看護を学ぶ。

授業計画

第１回：オリエンテーション、看護と養護、学校看護（担当：岡本陽子・寺西明子）

第２回：看護の機能と養護教諭（担当：岡本陽子・寺西明子）

第３回：基本となる看護行為、コミュニケーション、観察、記録、看護過程（担当：大野泰子・寺西明子）

第４回：思春期の看護、心身の成長発達・精神疾患（担当：岡本陽子・寺西明子）

第５回：母性看護、母性の概念・妊娠・出産分娩、新生児看護（担当：大野泰子・寺西明子）

第６回：成人・老年看護（担当：大野泰子・寺西明子）

第７回：眼科疾患・耳鼻科疾患と学校看護、疾患と外傷の救急看護（担当：岡本陽子・寺西明子）

第８回：皮膚科疾患・歯科疾患と学校看護、り患しやすい疾病と救急看護（担当：大野泰子・寺西明子）

第９回：　特別な支援の必要な児童生徒の理解と看護、医療的なケア（担当：岡本陽子・寺西明子）

第１０回：慢性疾患の子供と家族理解（糖尿病・腎臓病・てんかん）（担当：大野泰子・寺西明子）

第１１回：専門性が求められる養護診断（担当：岡本陽子・寺西明子）

第１２回：フィジカルアセスメントによる養護診断（担当：岡本陽子・寺西明子・大野泰子）

第１３回：　健康診断結果、健康教育と学校看護（担当：大野泰子・寺西明子）

第１４回：保健室の環境整備と経営（担当：大野泰子・寺西明子）

第１５回：学校安全と危機管理（担当：寺西明子・岡本陽子・大野泰子）

定期試験

テキスト

改訂・学校看護（岡田加奈子・遠藤伸子・池添志乃、東山書房）

参考書・参考資料等

適宜資料を配付する。

学生に対する評価

定期試験（５０％）、提出物（３０％）、授業参加度（２０％）

授業科目名： 看護学実習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ４単位	担当教員名： 寺西明子・大野泰子・岡本陽子 担当形態：複数・オムニバス

科　目	養護に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

救急処置に関する知識理解を持ち、心肺蘇生法やAEDの使用ができる。

臨床看護実習では、計画に基づく多様な医療機関や児童の心身の理解を深める。

授業の概要

フィジカルアセスメントを理解し、基本的な処置や指導ができるよう演習を行う。

グループワークを行い、互いの評価による確かな技術の向上に努める.

医療現場における看護の見学実習から、学校看護に求められる対応を理解する。

授業計画

第１回：オリエンテーション：学校看護で必要なフィジカルアセスメント、体温計・聴診器・血圧計・パルスオキシメーター等器機の使用と診断、記録（担当：岡本陽子・大野泰子・寺西明子）

第２回：心肺蘇生法：AED、救急処置の基礎知識（担当：岡本陽子・寺西明子）

第３回：頭痛のフィジカルアセスメント（担当：大野泰子・寺西明子）

第４回：腹痛のフィジカルアセスメント（担当：大野泰子・寺西明子）

第５回：かぜ症状・息苦しさのフィジカルアセスメント（担当：寺西明子・大野泰子）

第６回：悪心・嘔吐のフィジカルアセスメント（担当：寺西明子・大野泰子）

第７回：けいれん・失神のフィジカルアセスメント（担当：大野泰子・寺西明子）

第８回：切創・擦過傷・刺傷・熱傷フィジカルアセスメントと救急処置（担当：寺西明子・大野泰子）

第９回：頭部打撲のフィジカルアセスメントと救急処置（担当：寺西明子・大野泰子）

第１０回：眼部打撲のフィジカルアセスメントと救急処置（担当：寺西明子・大野泰子）

第１１回：胸部打撲のフィジカルアセスメントと救急処置（担当：寺西明子・大野泰子）

第１２回：腹部打撲のフィジカルアセスメントと救急処置（担当：寺西明子・大野泰子）

第１３回：骨折・捻挫・突き指のフィジカルアセスメントと救急処置（担当：寺西明子・大野泰子）

第１４回：救急処置のまとめと臨床看護実習ガイダンス（担当：寺西明子・岡本陽子・大野泰子）

第１５回：　学外看護実習計画の作成、記録

第１６回～３０回　臨床看護学外実習

テキスト　改訂学校看護、（岡田加奈子・遠藤伸子・池添志乃編著、東山書房）

参考書・参考資料等

改訂養護教諭のための診断学内科編、診断学外科編、（杉浦守邦著、東山書房）

学生に対する評価　　臨床評価（５０％）、提出物評価（３０％）、実技習得度（２０％）

授業科目名： 法学（日本国憲法含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 河野　喬 担当形態： 単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		

授業のテーマ及び到達目標

本講義では、「法とは何か」「人権とは何か」を考えることから始め、教員ないし対人援助専門職として社会に貢献するための法学的思考（リーガルマインド）の基礎を育む。

授業の概要

法の諸原則を学んだ上で、最高法規たる日本国憲法について概観し、成立背景、三原則、基本的人権、及び統治機構について解説する。そして、本学の特色である「対人援助」に焦点を当て、法との関連について具体的事例について検討を行う。

授業計画

第１回：法とは何か、人権とは何かについて定義をもとに考える。

第２回：近現代憲法の系譜、日本国憲法の制定経過、及び憲法を理解するために必要な諸概念について学ぶ。

第３回：国民主権、平和主義、及び基本的人権の尊重について学び、グループディスカッションを行う。

第４回：生命・自由・幸福追求権、及び法の下の平等について、現代社会の諸問題を題材にグループディスカッションを行う。

第５回：精神的自由、経済的自由、及び人身の自由について学び、その現代的意義について考える。

第６回：生存権、教育を受ける権利、及び労働基本権について学び、その現代的意義について考える。

第７回：国務請求権及び参政権について学び、国内外の現状について比較し考える。

第８回：立法・行政・司法の三権分立の均衡と抑制、国会の権限について学ぶ。

第９回：内閣の権能、組織、及び運営について学ぶ。

第１０回：裁判所の構成と権能について学び、国民の司法参加についてグループディスカッション等で深める。

第１１回：学校教育現場における法関係に注目し、教育関係法等について学び、グループディスカッション等により深める。

第１２回：医療福祉現場における法について整理し、医療法及び各種福祉法について学び、グループディスカッション等により深める。

第１３回：スポーツ及びトレーニング場面における法的諸問題に注目し、事故のリスクマネジメント等について学ぶ。 第１４回：権利・法律関係、契約、法的責任、各種保険等について学び、対人援助場面における紛争解決の手段を考える。 第１５回：学修全体の振り返りを行う。 定期試験は実施しない。
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 (1) 芦部信喜，高橋和之『憲法 第七版』岩波書店 (2) 長谷部恭男他『憲法判例百選I 第7版（別冊ジュリスト)』有斐閣 (3) 長谷部恭男他『憲法判例百選Ⅱ 第7版（別冊ジュリスト)』有斐閣 (4) 吉田利宏『元法制局キャリアが教える 法律を読む技術・学ぶ技術[改訂第3版]』ダイヤモンド社
学生に対する評価 (1) 毎回の授業終わりに小レポートを提出させ、理解度を確認する。（2%×15回）：30% (2) 正誤式及び記述式の小テストを2回行い、習熟度を確認する。（30%＋40%）：70%

授業科目名： 健康スポーツ科学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：金　致偉 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	・体育		

授業の到達目標及びテーマ

・基本的な運動動作を実施できる。

・スポーツ実施時の生体反応を理解する。

・スポーツの健康に対する効果を理解する。

授業の概要

本講義では、まず筋の特徴を講義し、筋肉の基本的なトレーニング法の実技を行う。また、スポーツの健康に対する効果を循環反応、エネルギー代謝などの生理機能の観点から講義する。さらに、ウォーキング及びジョギングの正しい姿勢について実技を通して解説し、ウォーキング時の心拍数及び血圧測定を行い、運動時の循環応答について実習を通して理解させる。スポーツが健康に効果的である一方、運動やスポーツ時の怪我によって、健康を害する場合がある。スポーツ外傷・障害のスポーツ特性、対処法などについて理解を深めさせる。

授業計画

第１回：筋肉の科学

第２回：ストレッチ体操実技

第３回：マシーンによる筋トレーニング実技

第４回：自重による筋トレーニング実技

第５回：静的及び動的運動時の循環応答

第６回：ウォーキングの正しい姿勢

第７回：ウォーキング実践

第８回：ウォーキング時の循環測定実習

第９回：ジョギングの正しい姿勢

第１０回：ジョギング実践

第１１回：無酸素運動時のエネルギー代謝

第１２回：有酸素運動時のエネルギー代謝

第１３回：基本気功体操

第１４回：呼吸法を取り入れた気功体操

第１５回：スポーツ外傷・障害

定期試験

テキスト

適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 特になし。
学生に対する評価 受講態度30%、レポート10%、試験60%により行う。

授業科目名： 英語Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： Anthony Joseph Nepia、 Edward Cooper Howland、 Trach Russell Lawrence Kemp、 Infante Daniel、 Aran John Askell 担当形態：クラス分け・単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	・外国語コミュニケーション		

授業の到達目標及びテーマ

・正確な発音により，会話の相手と意思の疎通を図る。

・場面に応じた丁寧な英語表現を用いることができる。

授業の概要

高等学校までに学習した内容を基盤とし，英語を活用することを目的とする。取り扱う英語は，実際の英語使用を想定した様々な場面におけるダイアローグ（会話）を主とする。授業内では学生同士でコミュニケーションを図る活動を取り入れる。実際に積極的に英語を発話することをとおして，1～2文レベルの英語を，音声面や文法面において正確に，そして場面に合わせて適切に用いながらコミュニケーションができることを目標とする。

授業計画

第１回：授業で用いられる英語表現

第２回：自己紹介

第３回：発音練習（1）：母音

第４回：発音練習（2）：子音

第５回：発音練習（3）：子音の連結

第６回：発音練習（4）：文強勢，抑揚

第７回：計画を立てる際に用いられる英語表現

第８回：旅先で用いられる英語表現

第９回：丁寧な英語表現(1)：依頼の表現

第１０回：丁寧な英語表現(2)：謝罪の表現

第１１回：丁寧な英語表現(3)：褒める表現

第１２回：丁寧な英語表現(4)：断りの表現

第１３回：丁寧な英語表現(5)：不平の表現

第１４回：丁寧な英語表現(6)：寸劇の作成

第１５回：寸劇の発表

定期試験

テキスト 適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 特になし。
学生に対する評価 定期試験70%，その他（受講態度，提出物，小テスト等）30%

授業科目名： 英語Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名： Anthony Joseph Nepia、 Edward Cooper Howland、 Trach Russell Lawrence Kemp、 Infante Daniel、 Aran John Askell 担当形態：クラス分け・単独
科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施行規則に定める 科目区分	・外国語コミュニケーション		

授業の到達目標及びテーマ

・事実や相手の意見を英語で読んだり聞いたりして，要点を理解することができる。

・事実や自分の意見を英語で説明することができる。

授業の概要

高等学校や英語I（前期開講）までに学習した内容を基盤とし，英語を活用することを目的とする。取り扱う英語は身近な題材に関するモノローグや文章を主とする。授業内では，各週のテーマに基づいた文構造やまとまりのある文章の構造に着目する。授業全体としては，学修した文や文章の構造に基づきながら，英語を読んだり聞いたりすることで内容を理解すること，そして英語を書くことができるようになることを目標とする。

授業計画

第１回：前期の復習・自己紹介

第２回：事実を述べる（1）：場所を説明する

第３回：事実を述べる（2）：順序立てて説明する

第４回：事実を述べる（3）：比較，対比する

第５回：事実を述べる（4）：原因と結果を述べる

第６回：事実を述べる（5）：ライティング演習

第７回：メールの構造

第８回：友人へのメール（1）：ライティング

第９回：友人へのメール（2）：修正，返信

第１０回：目上の人へのメール（1）：ライティング

第１１回：目上の人へのメール（2）：修正，返信

第１２回：意見を述べる（1）：構造

第１３回：意見を述べる（2）：ライティング

第１４回：意見を述べる（3）：修正

第１５回：意見を述べる（4）：発表（スピーキング）

定期試験

テキスト 適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 特になし。
学生に対する評価 定期試験70%，その他（受講態度，提出物，小テスト等）30%

授業科目名： 情報処理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 梶岡　寿満子、吉田　舞 担当形態： クラス分け・単独

科　目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・情報機器の操作

授業のテーマ及び到達目標

表計算ソフトで、データや資料の整理や分析、レポート作成を円滑に行えるようになる。将来の自分の仕事で、表計算ソフトを使うべき場面、使うべき機能を判断できるようになる。

授業の概要

「Excel(表計算ソフト)の基礎知識・操作法」を学習する。社会情報学の各分野、ビジネス、日常生活で必要不可欠なツールである表計算ソフトについて基礎の確認と、スキルアップを目的とする。コンピュータリテラシに続いて本科目を履修することで、その後の各科目でデータ・資料の整理・分析やレポート作成を円滑に行えるようになる。

授業計画

第１回：表計算ソフトとは―表計算ソフトで何ができるか、どのような場面で使われているかを理解する。

第２回：表の作成―データ入力、数式・関数・セル参照などの基本操作を理解し、習得する。

第３回：表の編集―数式・関数・セル参照の応用、表示形式、書式の設定などの操作を理解し、習得する。

第４回：表の印刷―表示モード、ヘッダー/フッターの設定、印刷設定などの操作を理解し、習得する。

第５回：グラフの作成（基礎）―グラフの構成要素を理解し、演習をとおして、グラフの作成と編集に関する基本操作を修得する。

第６回：データベース機能（基礎）―データテーブル（リスト）の構成要素を理解し、演習をとおして、並べ替え、抽出、集計などの基本操作を修得する。

第７回：複数のシートをまとめる操作―複数のシートを一括で操作したり、複数のシートのデータを集計する機能を理解し、習得する。

第８回：関数の活用―事務処理、ビジネスなどの分野で使用頻度の高い関数、引数の多い関数について修得する。

第９回：表示形式に関するユーザ定義―演習をとおして、数値の表示形式、日付の表示形式などを定義する方法を理解し、習得する。

第１０回：条件付き書式の設定―入力されたデータによって異なる書式を実現する条件付き書式

について理解し、習得する。 第１１回：グラフの作成（応用）―グラフの作成（基礎）より一歩進めた演習を行い、複合グラフやスパークラインなどの機能を理解し、修得する。 第１２回：ピボットテーブル―沢山の項目からなるデータを、さまざまな角度から整理・要約する機能であるピボットテーブルとグラフについて演習をとおして理解し、修得する。 第１３回：データベース機能（応用）―データベース機能（基礎）よりも高度な演習を行い、リストの並べ替え、抽出、集計に関して、複雑な条件設定を行う方法を修得する。 第１４回：マクロ―複数の処理をまとめておくマクロ機能について、演習で経験し、活用事例、マクロウィルスの危険性などについて議論する。 第１５回：総合演習―ここまで学修してきたことから、目的に応じて使うべき機能を判断し、複合的なデータを処理する演習を行う。 定期試験は実施しない。
テキスト ・教科書「情報リテラシー」（FOM出版）
参考書・参考資料等 ・特になし
学生に対する評価 各回の演習課題（第1回～第14回：各回5%、　第15回：30%）

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 渡邉満 担当形態： 単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業のテーマ及び到達目標

授業のテーマ

・近代教育の理念と思想の諸課題を理解し、それらの諸課題と今日の諸問題に取り組む可能性を考える。

到達目標

・現代社会における教育の基本概念、目的・目標を西洋と我が国の教育の歴史と思想の考察を通じて考え、教育の理念と思想について理解する。

・道徳教育の教科化の理念、協同学習の考え方や実践等の具体事例を手がかりに、現代に至るまでの学校の機能と役割についての考え方と実際を歴史的に理解し、学校における教育の在り方、特に最新の学習指導要領の基本的な考え方を理解する。

授業の概要

教育の理念について、西洋と我が国の教育の歴史と教育思想、更には、学校における教育の基本的な諸課題の考察を通じ、教育の本質を理解し、正しい教育観を形成する。さらに、学習指導要領の改訂と道徳教育の教科化を通して教育内容としてのコンテンツとコンピテンシーの関係を考えることによって、主体的な学びの意義や現代の学校における教育課題を理解する。

授業計画

第１回：教育の本質；自己の個人的な教育体験を踏まえ「教育・教育学とは何か」を考える。

第２回：教育の目的・目標(1)；教育目的・目標を歴史的に把握し、その機能を理解する。

第３回：教育の目的・目標(2)　；我が国の教育法規における教育目的・目標を理解する。

第４回：教育に関する思想(1)　；近代はじめの西洋の教育思想（ルター、コメニウス）について理解を深める。

第５回：教育に関する思想(2)　；近代の西洋の教育思想（ルソーやペスタロッチー、フレーベル）について理解を深める。

第６回：教育に関する思想(3)　；現代の教育思想（システム論、構造主義、ポストモダン

論など）について理解を深める。
第７回：近代における学校の成立と展開(1)；西洋の学校の成立と展開を歴史的に理解する。
第８回：近代における学校の成立と展開(2)；西洋の学校改革について理解する。
第９回：我が国における学校の成立と展開(1)；我が国の学校の特徴を明治以後の変遷から理解する。
第 10 回：我が国における学校の成立と展開(2)；我が国の学校の特徴を戦後の学校改革の歴史から理解する。
第 11 回：学校の機能と家庭や教員の役割（１）；家庭と学校の教員の課題を考察する（学校と家庭や地域、社会との関わりの歴史と課題から考える。）。
第 12 回：学校の機能と社会的役割（２）；これからの変化の激しい時代における家庭や学校の教育の課題を考える。
第 13 回：教授・学習の理論（１）；「協働学習」と「アクティヴラーニング」、「コンテンツからコンピテンシーへ」という考え方について
第 14 回：教授・学習の理論（２）；道徳授業の実践事例を通して話し合い活動の意義を考える。
第 15 回：教授・学習の理論（３）；言語活動重視とはどういうことか考える。
定期試験

テキスト
小笠原道雄編著『教育学概論』福村出版

参考書・参考資料等
今井康雄『教育思想史』有斐閣
渡邉満・押谷由夫・渡邉隆信・小川哲哉編『「特別の教科　道徳」が担うグローバル化時代の道徳教育の理論と実践(全三巻)』北大路書房

学生に対する評価
レポート（40%）、定期試験（60%）

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 渡邉満 担当形態： 単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等.	教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

我が国の学校教育及び教職の社会的意義や役割を理解する。

そのため、学校の意義と課題、教員の役割と課題を包括的に学び、到達目標として、以下の諸点について理解することを目指す。

① 公教育の目的とその担い手である教員の課題を理解する。
② 進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解する。
③ 教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割と課題を理解する。
④ 今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解する。
⑤ 幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解する。
⑥ 教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解する。
⑦ 教員に課せられる服務上及び身分上の義務及び身分保障を理解する。
⑧ 校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解する。

授業の概要

学校の教師に関する考え方についての歴史、学校における教師が取り組むべき現代的な諸課題、教員の養成と教育をめぐる制度や見方・考え方、教員の仕事に関する法制度の仕組みや問題点、さらに教職の使命を理解し、責任を果たすためにチーム学校の一員としての教師のあり方などについて、講義と共にディスカッション等主体的な学習方法を活用しながら進める。

授業計画

第１回：教職の意義と役割－現代社会と教師（１）現代社会と学校教育の役割
第２回：教職の意義と役割－現代社会と教師（２）教師と子どもの教育的関係
第３回：教職の意義と役割－現代社会と教師（３）変化する社会と教師の仕事

第４回：教職の意義と役割－現代社会と教師（４）個業化傾向と同僚性の意義
第５回：教職の意義と役割－現代社会と教師（５）学び続ける教師
第６回：教員の仕事と専門性の向上（１）教員の資質能力と資格
第７回：教員の仕事と専門性の向上（２）教員養成と教師教育
第８回：教員の仕事と専門性の向上（３）教員採用の仕組み
第９回：教員の仕事と専門性の向上（４）教員の職種と職務・服務
第 10 回：教員の仕事と専門性の向上（５）待遇・勤務条件・身分保障
第 11 回：教員の仕事と専門性の向上（６）研修
第 12 回：教職の使命と責任に向けて（１）学校空間の開放制と教育活動
第 13 回：教職の使命と責任に向けて（２）教育的思考と教育実践
第 14 回：教職の使命と責任に向けて（３）不登校問題と教師の課題
第 15 回：教職の使命と責任に向けて（４）「チーム学校」と学校運営及び適切な進路選択（教職科目・教育実習・学校ボランティア活動）
定期試験

テキスト
小笠原道雄編著『教育的思考の作法―教職概論』福村出版

参考書・参考資料等
教育法令研究会著『図表でわかる教育法令』学陽書房
その他配布資料を用意する。

学生に対する評価
授業への積極的な参加、プレゼンテーション、および授業内課題小レポート（50%）、定期試験の成績（50%）

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 太田佳光 担当形態： 単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

現代社会における教育及び学校の社会的機能を理解し、さらに教育問題について、その社会的要因や背景、そして本質の的確な理解ができる。

到達目標は次のように設定する。

教育に関する社会的事項

① 学校を巡る近年の様々な状況の変化を理解する。

② 子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解する。

③ 近年の教育政策の動向を理解している。

④ 諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解する。

教育に関する制度的事項

① 公教育の原理及び理念を理解する。

② 公教育制度を構成している教育関係法規を理解する。

③ 教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解する。

④ 教育制度をめぐる諸課題について例示できる。

教育に関する経営的事項

① 公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解する。

② 学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたＰＤＣＡの重要性を理解する。

③ 学級経営の仕組みと効果的な方法を理解している。

④ 教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解する。

学校と地域との連携

① 地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解する。

② 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解する。

学校安全への対応

① 学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解する。

② 生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上

の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解する。

授業の概要

本授業は現代教育及び学校のあり方を規定する社会的な面や機能に目を向けて、「教育と社会」の関係を基軸として社会学的にアプローチしていく。「教育と社会」の関係を理解するために、家族と学校の社会化機能、学校組織と学校経営、教育機会、教育と社会階層、ジェンダーと教育、地域との連携や安全問題などをテーマとして、現実の教育問題をディスカッション等によって考察し学習する。

授業計画

第１回：教育社会学とは何か　―教育社会学の研究対象、特性、研究方法を学ぶ
第２回：教育社会学のパラダイム展開　―教育社会学のパラダイム展開プロセスを学ぶ
第３回：社会化とは何か　―社会化の意味を把握し、社会化のメカニズムを理解する
第４回：家族の社会化機能　―古典的な研究を理解し、家族の社会化機能と問題点を捉える
第５回：学校組織（１）官僚制組織としての学校組織の特徴を理解する
第６回：学校組織（２）学校組織の社会的機能を把握する
第７回：教育内容とカリキュラム　―教育内容とカリキュラムの社会学的性格を理解する
第８回：教育問題の社会学（１）教育問題と教育改革の実態を理解する
第９回：教育問題の社会学（２）教育病理とその原因を理解する
第10回：教育機会　―教育機会の不平等の実態を理解し、機会均等の阻害要因を捉える
第11回：階層・学歴・職業（１）現代社会の階層構造、学歴と社会移動を理解する
第12回：階層・学歴・職業（２）学歴と職業の関係、学歴社会の現状を理解する
第13回：ジェンダーと教育　―パーソナリティー形成とジェンダー化の関係を理解する
第14回：学校と地域の連携　―学校と地域の連携の教育的意義と学校づくり
第15回：学校安全と安全教育　―学校における危機管理と安全指導
定期試験

テキスト

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

加野芳正・藤村正司・浦田広朗編著『新説教育社会学』玉川大学出版会、２００７年

学生に対する評価

学修態度、定期試験（レポートの提出を含む）とその学問的レベルなどで評価する。
定期試験（70%）、学修態度（30%）

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 堀井　順平
			担当形態： 単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業のテーマ及び到達目標

子どもの発達と学習について理解し，学校教育における子どもに対する指導と支援の基礎的な知識や理論を身につける。

授業の概要

児童生徒は学校生活を通して，知識の獲得のみならず，学ぶことの基礎や社会性を身につけていく。教師は児童生徒の発達や学習を支援し，人格的成長へとつなげていくことが求められている。そのために，教師を志望する者は，児童期と青年期の発達と学習に関する理論を理解し，教育現場で児童生徒と関わるための基盤を形成する必要がある。そこで，本授業では，認知，社会性などの様々な側面の発達と，学習理論の立場や学習に関する心理学的な構成概念を取り上げ，教育現場で児童生徒の発達と学習を支援するための基礎を身につけることを目的とする。

授業計画

第１回：オリエンテーション／教育心理学とは
第２回：身体的・運動・言語発達
第３回：認知発達
第４回：社会性発達
第５回：思春期における心身の発達
第６回：青年期のアイデンティティ
第７回：青年期の対人関係
第８回：発達障害
第９回：学習の基礎的理論
第10回：記憶のメカニズム
第11回：動機づけと自己効力感
第12回：授業の方法と学習支援
第13回：学校教育における評価
第14回：キャリア教育とキャリア発達支援
第15回：まとめ
定期試験

テキスト 　特になし、適宜プリントを配布する。
参考書・参考資料等 　授業内で適宜紹介する。
学生に対する評価 　受講態度（20%），毎回のレポート課題（30%），定期試験（50%）

授業科目名： 特別支援教育の基礎	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 加地信幸 担当形態： 単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		

授業のテーマ及び到達目標

担当教員の長年にわたる特別支援学校教諭の経験を活かした授業を通じて、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解をテーマとし、以下のことを到達目標とする。

1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。
2) 肢体不自由・病弱・知的障がい・視覚障がい・聴覚障がい、および医療的ケアを必要とする重度・重複障がい等を含む様々な障がいのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。
3) 発達障がいや軽度知的障がいをはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。
4) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する具体的な支援の方法（自立した生活の質を高める指導及び運動・スポーツ指導を含む）について例示することができる。
5) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。
6) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。
7) 特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。
8) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。

授業の概要

特別支援学校や通常の学級等にも在籍している様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が、授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理

解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
授業計画 第１回：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 第２回：障がいのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難 第３回：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程 第４回：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法 第５回：通級による指導及び自立活動の教育課程と内容 第６回：個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成の意義と方法 第７回：特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭との連携 第８回：母語や貧困の問題等による特別の教育的ニーズ 定期試験は実施しない。
テキスト 授業中に適宜資料プリントを配布する。
参考書・参考資料等 加藤勝博『特別支援学校の基礎・基本2020』ジアース教育新社
学生に対する評価 レポート（100%）

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 吉田　成章 担当形態： 単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

教育課程の意義および編成原理に関する理解を深め、学校における教育課程の実践的展開について具体例に即して学習することで、教師の専門職としての基礎・基本を習得する。

授業の概要

「教育課程」と「カリキュラム」という用語の定義やその歴史的展開の理解を踏まえ、国際・国内学力調査の結果への対応も含めた国際的なカリキュラム改革の動向の中にわが国の学習指導要領の改訂の特質を位置づけるとともに、中学校・高等学校におけるカリキュラム・マネジメントの具体的な実践の検討を通して教育課程編成に関わる内的要因と外的要素の関係を捉えるとともに、カリキュラムを評価するということの意義と課題について理解を深める。

授業計画

第１回：教育課程論の対象と範囲
第２回：教育課程とカリキュラムおよび教育課程の編成原理
第３回：学習指導要領の変遷と教育課程編成の意義
第４回：教育課程行政と今時学習指導要領改訂の特質
第５回：国際学力調査と諸外国のカリキュラム改革
第６回：学力論変遷と学力形成の課題
第７回：国内学力調査の動向と教育課程編成の課題
第８回：教育課程経営とカリキュラム・マネジメント
第９回：教材開発を視点とした教育課程編成
第１０回：単元開発に見る教科固有性と教科横断性
第１１回：子どもの多様性からみた教育課程編成の意義と課題
第１２回：地域実態を踏まえた教育課程編成の具体的展開
第１３回：学校の特色を活かした教育課程編成のあり方
第１４回：授業研究を軸とした教育課程の評価と改善
第１５回：教育課程の評価とカリキュラム評価定期試験
定期試験

テキスト

テキスト指定は行わず、資料・プリントを配布する

参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』 『高等学校学習指導要領』
学生に対する評価 授業への参加10％、中間課題20%、最終試験70%で評価する。

授業科目名： 道徳教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 渡邉満
			担当形態： 単独

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法

授業のテーマ及び到達目標

現代社会と子どもの諸課題に対応する道徳教育のための道徳授業の創造

到達目標は次のように設定する。

現代社会とそこにおける教育の諸課題を明らかにし、学習指導要領を踏まえながら道徳教育の理論的な理解及び道徳の授業づくりに取り組み、実際に授業を行って、以下を内容とする実践的力量を獲得する。

①道徳の本質（道徳とは何か）を理解する。

②道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解する。

③子供の心の成長と道徳性の発達について理解する。

④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解する。

⑤学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解する。

⑥多様な指導方法の意義と課題を理解する。

⑦道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用できる。

⑧道徳科の学習指導案を作成できる。

⑨道徳科の学習評価の在り方を理解する。

⑩模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

授業の概要

学習指導要領について正しい知識と理解を獲得し、今日の社会や子どもたちの諸課題に対応することのできる教育及び道徳教育を考えると共に、それらを具体化する道徳（科）の授業づくり（教材開発を含む）に取り組み、授業の実施に必要な基礎的な指導力を身につけることができるよう模擬授業やワークショップなど活動的な学修を行う。

授業計画

第１回：現代社会における子どもと教育の諸課題

第２回：「学ぶ」・「教える」はどのようにして可能か

第３回：道徳及び道徳教育はどのようなものか

第４回：わが国の戦前の道徳教育

第５回：戦後の学習指導要領の改訂と道徳教育

第６回：道徳の目標と内容（道徳科と他の各教科・領域における道徳教育） 第７回：道徳性の意義と発達段階 第８回：道徳授業の現代的課題(問題解決的な学習方法としての討論及び教材の活用・開発) 第９回：道徳授業の事例研究（価値の内面化の考え方） 第10回：道徳授業の事例研究（価値観の相対化の考え方） 第11回：道徳授業の共同立案（教材研究、指導案の書き方を含む）（ワークショップ） 第12回：模擬授業の実施と省察（ワークショップ） 第13回：道徳教育の指導計画(全体計画及び年間指導計画) 第14回：学級経営と道徳教育 第15回：道徳科の評価 定期試験
テキスト 渡邉満他編『「特別の教科　道徳」が担うグローバル化時代の道徳教育』北大路書房
参考書・参考資料等 渡邉満他編『中学校における「特別の教科　道徳」の実践』北大路書房 文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示） 文部科学省『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』（平成29年7月）
学生に対する評価 受講態度（講義・ワークショップ等）（30%）、定期試験（70%）

授業科目名： 総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 岡本義裕、中尾豊喜 担当形態： オムニバス
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法および生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		

授業のテーマ及び到達目標

総合的な学習の時間の学習の意義と特質を理解し、主体的・対話的な深い学びを実現するために必要な学修を行う。

「総合的な学習の時間」は、実社会・実生活の課題を、広範な視野、多様な視点から捉え、各教科等で育まれてきた様々な事物・事象への認識・理解・思考・判断・表現・処理などの諸力を横断的に働かせながら探究し、具体的な解決や実現を目指す学びを通して、よりよい自分たちの生き方考え方行動の在り方を主体的創造的共同的に模索し続ける資質・能力の育成を目指す学習活動である。本授業では、そうしたねらいや指針を具現化していく実践力の基盤を培うために、以下の内容の理解・修得を目指す。

①総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割についての理解・修得（教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から）。

②学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに、各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点についての理解・修得。

③各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性についての、具体的な事例を通した理解・修得。

④主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性についての、具体的な事例を通した理解・修得。

⑤探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てについての理解・修得。

⑥総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点についての理解・修得。

授業の概要

総合的な学習の時間の本質的な目的・意義やそれに沿った基本的な実施要件を押さえ、それらを特徴的な実践事例や自身の学習経験・記憶などに照らし合わせることで、導入以来の成果と問題点を明らかにする。その上で、あらためて当該学習の時間をアクティブラーニングとして活性化していくための諸課題とそれらを具現化する方策の重要性を理論的かつ実践的に理解し、指導・支援者として正対していくためのアプローチの視座を確立していく。

授業計画			
第１回	「総合」の源流 明治以来、主知主義的な教師主導の学びへのアンチテーゼとして模索されてきた子どもたちの主体的な課題探究の学びの実績を、「総合」創設への文脈に位置づけることで、「総合」へとつながる、課題探究の学び定位の重要性を歴史的変遷の中で理解する。		岡本義裕
第２回	「総合」の基本理念・指針 当初「総合」に与えられた学習活動としてのねらいや具体的要件など特色について、その意義や意味を、基盤となった「ゆとり教育」の本義と重ね合わせ概観することで、「ゆとり教育」への認識を更新しながら、「総合」の根本的な使命・役割を理解する。		岡本義裕
第３回	「総合」の先導的実践 早くから「総合」の本質を見据え具現化に取り組んできた学校を取り上げ、そこでの実践の特色整理を通して、あらためて「総合」の魅力や可能性を認識することで、具体的な教師の支援の様子や子どもたちの学びの姿に、「総合らしさ」を見つける。		岡本義裕
第４回	「総合」の行き詰まりの様相とその要因 創設以来、その特色を十分に生かせず、指針要件に反する曖昧な実践が多く見受けられてきた状況について、根本原因や背景事情を分析し、克服課題として整理することで、不活性状況が、指導観や学力観をめぐる教師の特性によるものであることを把握する。		岡本義裕
第５回	「総合」改善への動向と現状の基軸 状況の打開を図る学習指導要領の改訂の経緯を踏まえ、探究の学びとしての抜本的な再興に向け、対話・議論が現行において重点化されている必然性について考えることで、対話・議論を、合意・了解を目指す論理的なコミュニケーション活動として認識する。		岡本義裕
第６回	「主体的、対話的で深い学び」としての前提要件 アクティブラーニングの展開を支える必須の要件として、探究の「的」「場」「術」を掲げ、それぞれの起動・確立・実効に向けた具体的方策について考えることで、３要件が、主体・創造・共同に根ざす探究の学びの成否に深く関わることを理解する。		岡本義裕
第７回	事例考察（カリキュラムマネージメントの観点から） 「総合」の実践を題材とした映像作品（前半部分）を、これまでの講義内容に照らしながら視聴する中で、主にカリキュラムマネージメントの観点から考察していくことで、指導・支援者の視点、及び、学習者の視点で、カリキュラム展開を批判的に検討する。		岡本義裕
第８回	事例考察（話し合い活動の観点から） 「総合」の実践を題材とした映像作品（後半部分）を、これまでの講義内容に照らしながら視聴する中で、主に「話し合い活動の展開」の観点から考察していくことで、指導・支援者の視点、及び、学習者の視点で、話し合い展開を批判的に検討する。		岡本義裕
アクティブラーニングとしての改善に向けた具体的指針（3）話し合い活動自体の論理性の獲得			
第9回	話し合い活動における論理的展開の必要性	論理的言語運用力向上ワークショップ①＜生徒目線／教師目線＞	中尾豊喜
第10回	論理性の仕組みと具体的運用（説明と説得）	論理的言語運用力向上ワークショップ②＜生徒目線／教師目線＞	中尾豊喜

総合的な学習の時間の実効化に向けた教師の役割（指導・支援の在り方）			
第11回	形成的展開受容の余地も確保しながら先見力を発揮しての学習計画のグランドデザイン	提示要件・条件に基づく単元案構想①＜教師目線（生徒目線での発想も組み込みながら）・グループ毎＞	中尾豊喜
第12回	テーマ（目的・目標）へのこだわりに常に立ち返りながらPDCAを意識させる展開過程での指導・支援	提示要件・条件（付加分を含む）に基づく単元案の構想②～プレゼン作成＜教師目線（生徒目線での発想も組み込みながら）・グループ毎＞	中尾豊喜
第13回	ICTなど有効な手立ての選択力と活用力の伸長	単元案プレゼン作成仕上げ（ICTも積極的に活用しながら）＜教師目線＞	中尾豊喜
第14回	コンテンツベースからコンピテンシーベースへの学力観転換を見据えた学びの評価（具体的指針や観点の策定）	単元案プレゼン発表＜教師目線＞	中尾豊喜
第15回	まとめ： 学習活動としての社会的要請の高まりとそれに応えるための実践意義への信頼と粘り強い取り組みへの覚悟	単元案相互評価・教員講評＜教師目線＞	中尾豊喜

テキスト

文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開　中学校編　―総合的な学習の時間を核とした課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等向上に関する指導資料―』教育出版

参考書・参考資料等

渡邉満・押谷由夫・渡邊隆信・小川哲哉編『中学校における「特別の教科 道徳」の実践 』北大路書房

学生に対する評価

① 適時数回提出する「講義内容総括（小レポート）」での記述内容（40%）
② 各回授業での受講態度（様々なねらいや形態で行われるグループワークやアクティビティーへの主体的参加・貢献の様子を含む）（20%）
③「最終課題（講義全体総括レポート等）」の量的・質的完成度（40%）

以上により総合的に評価する。但し、「受講態度が好ましくない」「最終個別課題を提出していない」等の場合は、評価の対象としない。

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 時津啓
			担当形態： 単独

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳、特別活動及び総合的な学習の時間に関する内容

授業のテーマ及び到達目標

　学校教育全体における特別活動の位置づけ、集団活動の意義を理解する。

到達目標は、特別活動の意義と役割、指導原理等を理解するとともに、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」「チームとしての学校」の視点をもち、特別活動を指導することができるようなることである。また、地域住民、各教科との関連、地域との連携等の組織的対応等、特別活動の特質を踏まえ、教材研究、学習指導案の作成などの方法を修得する。

授業の概要

前半は、特別活動の目標、内容、カリキュラム上の位置づけ、他の領域や各教科との関連を理解し、4領域の特質をおさえる。後半は、教育課程全体における特別活動の指導を考え、具体的な事例を検討する。評価方法、集団活動の意義、合意や議論の重要性を学ぶ。また、家庭・地域住民、関係機関との連携を考察し、組織的に対応する知識を身につける。

授業計画

第１回：特別活動の実際と目的について

第２回：特別活動の歴史―学習権・「国民の教育権」論から見た特別活動の目標

第３回：特別活動の内容（１）―教育課程における4領域の位置づけ

第４回：特別活動の内容（２）―学級活動・ホームルーム活動における教師の役割（いじめを事例として）

第５回：特別活動の内容（３）―生徒会活動とシティズンシップ教育（民主主義）の関係（情報モラル教育の必要性から）

第６回：特別活動の内容（４）―学校行事と集団活動、参加

第７回：特別活動の指導上の理論と実際（１）―サブカルチャーにおける特別活動

第８回：特別活動の指導上の理論と実際（２）―新聞報道と特別活動のイメージとの関連

第９回：特別活動の指導法（１）―「社会参加」を促す特別活動とその評価（デューイ理論から）

第10回：特別活動の指導法（２）―「人間関係形成」のための特別活動とその評価（広域通信制高校の教育実践から）

第11回：特別活動の指導法（３）―「自己実現」のための特別活動とその評価（公共性を育むための教育実践から） 第12回：特別活動の指導法（４）―キャリア教育のあり方をめぐって 第13回：特別活動のデザイン（１）―家庭・地域住民・関係機関との連携を模索する指導計画（ICTの活用事例から） 第14回：特別活動のデザイン（２）―話し合い活動を組み込んだ特別活動の指導計画 第15回：まとめ―教育課程における特別活動
テキスト 山田浩之編『特別活動論』協同出版 文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示） 文部科学省『中学校学習指導要領解説　特別活動編』（平成29年7月） 文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説　特別活動編』（平成30年3月改訂版の指導要領に対応）
参考書・参考資料等 相原次男他編『新しい時代の特別活動』ミネルヴァ書房
学生に対する評価 受講態度（30%）、レポート・指導計画（70%）

授業科目名： 教育方法論（ICT活用を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 吉田　成章 担当形態： 単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

教育の方法に関する理解を深め、授業指導の実際、授業研究の課題、情報機器及び教材の活用等について具体例に即して理論的実践的に学習することで、教師としての教育技術の基礎を習得する。

授業の概要

教育における「方法」と「技術」の思想的背景とその具体的展開を踏まえ、教育における目標―内容―方法―評価の関係の理解のもとで教育方法・技術の構想力を培い、具体的な学習指導案・教材・授業記録の検討とともに中学校・高等学校におけるアクティブ・ラーニングを巡る動向とその実践的課題を整理し、教材・教具のデジタル化の動向も踏まえて授業における情報機器及び教材の活用等に関わる教育技術の基礎を習得する。

授業計画

第１回：教育方法・技術の対象と範囲

第２回：教育における目標―内容―方法―評価の関係

第３回：教育方法における情報化の動向、校務の情報化、学校におけるICT環境の整備など

第４回：教材研究を踏まえた教育的タクトの構想

第５回：教育方法を構成する要件：教育・保育・学習環境・校内情報通信環境など

第６回：学習指導案の構想と学習評価・授業評価のための情報活用

第７回：教育方法の基礎技術：教材・教具の選択と遠隔・オンライン教育システムと方法

第８回：子どもの興味・関心・体験と学習とを関連づける情報機器の活用

第９回：子ども理解に基づく学級指導と学級経営計画の構想

第１０回：地域実態に即した教材開発と学習指導案の構想

第１１回：教育方法の基礎技術：板書と発問の技術とノート指導・学習履歴などの教育データ活用

第１２回：アクティブ・ラーニングの実践的展開とICT活用による子どもの学びの蓄積

第１３回：教育における「メディア」とメディアとしての学校

第１４回：教材・教具のデジタル化の動向と情報モラル教育・情報活用教育の実践的課題

第１５回：いま求められる授業観の転換と教育方法・技術の課題

定期試験

テキスト テキスト指定は行わず、資料・プリントを配布する
参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』 『高等学校学習指導要領』
学生に対する評価 授業への参加10％、中間課題20%、最終試験70%で評価する。

授業科目名： 生徒指導論（進路指導を含む）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 渡邉満、古川雅文 担当形態： 複数・オムニバス
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		

授業のテーマ及び到達目標

テーマ：現代社会を生きるために必要な資質・能力を育成する生徒指導及び進路指導・キャリア教育

到達目標：授業では、学校の教員に求められる役割に関する基本的知識を知ることによって、学校における生徒指導（進路指導・キャリア教育を含む）の意義と役割を理解し、それと共にそれを果たすことができるための基礎的な資質・能力の一つである対人的コミュニケーション力を対話・討論・ワークショップによって獲得する。

授業の概要

複雑化する現代社会の様々な課題が児童生徒の生活上の諸課題となっている。それだけに、進路指導・キャリア教育を含めて、学校における生徒指導はきわめて重要な教育課題となっている。そこで、授業では、現代社会の現状を踏まえて、生徒指導と進路指導・キャリア教育の主要な諸課題と領域について解説する。具体的には、テキストとプリントを使いながら、今日の学校における生徒指導及び進路指導・キャリア教育の基本的事項について解説し、討論や課題解決を探るアクティブラーニングも活用して確実な理解ができるようにする。

授業計画

第１回：オリエンテーション；講義の計画や内容の概略を説明する。（担当：渡邉満・古川雅文）

第２回：生徒指導上の諸問題（平成27年度の児童生徒の問題行動）の現状と課題（担当：渡邉満）

第３回：生徒指導の意義と課題；教科指導や道徳教育とは異なる生徒指導の意義について検討し、学校におけるその課題について考える。（担当：渡邉満）

第４回：生徒指導と教育課程；学校の教育課程における生徒指導の位置づけについて考える。（担当：渡邉満）

第５回：生徒指導と子ども理解；社会的リテラシーの育成を目標に置く生徒指導の観点から子ども理解、特に子どもの発達と発達段階について考える。（担当：渡邉満）

第６回：生徒指導の指導原理；生徒指導の意義を具体化するための指導方法の特質について考える。（担当：渡邉満）

第７回：生徒指導と学校運営（生徒指導体制の在り方）；学校の教育活動の全体で生徒指導が機能するために必要な体制の在り方、特に養護教諭の役割について考える。（担当：渡邉満）
第８回：生徒指導と道徳教育；いじめ問題を契機にして始まった道徳科の意義と役割について考える。（担当：渡邉満）
第９回：進路指導・キャリア教育の意義と内容；現代社会の諸課題と関連させながら進路指導・キャリア教育の諸課題を考える。（担当：古川雅文）
第10回：進路指導・キャリア教育の理論；特性論・発達理論・学習理論の諸観点から進路指導・キャリア教育の実践の背景にある理論について考える。（担当：古川雅文）
第11回：教育課程と進路指導・キャリア教育；進路指導・キャリア教育の学校の教育課程における位置と役割について考える。（担当：古川雅文）
第12回：進路指導・キャリア教育の方法と技術；進路指導・キャリア教育の方法と技術の特質について考える。（担当：古川雅文）
第13回：進路指導・キャリア教育の実践；進路指導・キャリア教育の実践について、実践例に基づき考える。（担当：古川雅文）
第14回：進路指導・キャリア教育の推進と評価；進路指導・キャリア教育の推進と評価の在り方について、実践例を示して、その意義を理解する。（担当：古川雅文）
第15回：進路相談・キャリアカウンセリング；進路指導、キャリアカウンセリングの基礎的な考え方と実践方法について知る。（担当：古川雅文）
定期試験

テキスト
文部科学省『生徒指導提要』教育図書
小泉令三・古川雅文・西山久子編『キャリア教育―生涯にわたる生き方教育の理解と実践』北大路書房

参考書・参考資料等
授業時に指示する。

学生に対する評価
定期試験（60%）、レポート（20%）、受講態度（20%）

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 石田　弓、大前泰彦 担当形態： オムニバス
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		

授業のテーマ及び到達目標

本授業では、幼児児童生徒が自己理解を深めたり、好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育むと同時に、個々の幼児児童生徒の発達状況や心理的特質、および教育的課題を適切に捉え、個性の伸長や人格の成長を支援するために必要な教育相談の基本的な知識と技能（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身につけることをねらいとしている。

到達目標は、「教育相談の意義と理論」、「教育相談の方法」及び「教育相談の展開」に関する理解と基礎的な実践的力量を獲得することである。

授業の概要

学校教育現場では、いじめや不登校（園）、非行、発達障害といった子どもたちの示す不適応問題や、近年始まった特別支援教育のなか、さまざまな問題が山積している。そうしたなかで、本授業では、教師として子どもたちの発達や個性を尊重しながら、どのような効果的支援が可能なのかについて、自ら考え、実践していくための基本的な知識と技能を身につけさせる。具体的には、子どもたちの抱える課題（問題）を適切に把握（アセスメント）するための知識や傾聴を基盤としたカウンセリングに関する知識・技能、保護者への支援、教師間の協力体制や他機関との連携など、学校教育現場の実情を踏まえて講義を進めていく。

授業計画

第１回：教育相談の意義と課題　（担当：石田）
第２回：教育相談の実際と留意点　（担当：石田）
第３回：子どもの心の問題を理解するための基礎知識　（担当：石田）
第４回：家庭・家族の問題に対する理解と支援　（担当：石田）
第５回：校内での協力体制　（担当：石田）
第６回：他機関との連携　（担当：石田）
第７回：開発的教育相談　（担当：石田）
第８回：教師のメンタルヘルス　（担当：石田）
第９回：教育相談におけるカウンセリングの理論と方法　（担当：大前）
第10回：カウンセリングの基本訓練Ⅰ　－基本的な技能の修得－　（担当：大前）

第11回：カウンセリングの基本訓練Ⅱ －ロールプレイによる訓練－　（担当：大前） 第12回：子どもをめぐる問題と対応Ⅰ －不登校－　（担当：大前） 第13回：子どもをめぐる問題と対応Ⅱ －いじめ－　（担当：大前） 第14回：子どもをめぐる問題と対応Ⅲ －発達障がい－　（担当：大前） 第15回：まとめ －事例で学ぶ教育相談の進め方－　（担当：大前）
テキスト 石田　弓編『教師教育講座第11巻　教育相談　改訂版』協同出版
参考書・参考資料等 適宜資料を配布する。 春日井敏之・伊藤美奈子編『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房
学生に対する評価 受講態度などの平常得点（20%）、授業時に提出する感想・レポート課題・小テスト等（30%）、グループワーク（ロールプレイ）と発表（50%）

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（養護）		単位数：２単位		担当教員名：大野泰子、寺西明子	
科　目	教育実践に関する科目				
履修時期	４年次後期	履修履歴の把握(※１)	○	学校現場の意見聴取（※２）	○

受講者数　２０人（1クラスで実施）

教員の連携・協力体制
　複数

授業のテーマ及び到達目標

1）学校教育の現状と児童生徒の実態を理解し、養護教諭としての職務に関する専門的な知識を身に着けようとすることができる。
2）児童生徒の成長発達について理解し、対応に関心をもち意欲的に取り組むことができる。
3）問題解決や社会の変化に適切に対応できるよう、考え判断しようとすることができる。
4）企画力、連絡・調整能力を身に着け、学校・家庭・地域や関係機関と連携した取り組みを実践しようとすることができる。

授業の概要

　授業を通して学生自身が将来養護教諭となるうえで、自己評価から課題を自覚し、必要とされる知識や経験を補い定着を測る学びを行う。

授業計画

第１回：ガイダンス、養護教諭育成指標による自己課題の把握（担当：寺西明子・大野泰子）
第２回：履修ｶﾙﾃ及び教育実習の振り返り(1)目指す養護像について(担当：寺西明子・大野泰子)
第３回：履修ｶﾙﾃ及び教育実習の振り返り(2)保健管理について(ICT活用)(担当：寺西明子・大野泰子)
第４回：保健管理について：グループ演習（担当：寺西明子・大野泰子）
第５回：履修ｶﾙﾃ及び教育実習の振り返り(3)保健教育について(ICT活用)(担当：寺西明子・大野泰子)
第６回：保健教育について：グループ演習及び発表（担当：寺西明子・大野泰子）
第７回：フィールドワーク：児童相談所見学ガイダンス（担当：寺西明子・大野泰子）
第８回：フィールドワーク：児童相談所の役割（担当：寺西明子・大野泰子）
第９回：フィールドワーク：児童相談所と学校、養護教諭（担当：寺西明子・大野泰子）
第１０回：心の健康問題と健康相談の在り方：事例研究（担当：寺西明子・大野泰子）
第１１回：特別支援教育と養護教諭（担当：寺西明子・大野泰子）
第１２回：学校安全と環境衛生（担当：寺西明子・大野泰子）
第１３回：保健室経営と地域連携（担当：寺西明子・大野泰子）
第１４回：これからの養護教諭に求められること（担当：寺西明子・大野泰子）
第１５回：授業の成果発表、養護観・教育観のまとめ（ICT活用）（担当：寺西明子・大野泰子）

テキスト：　改訂養護実習ハンドブック（大谷尚子編著、東山書房）

参考書・参考資料等：自己成長を目指す教職実践演習テキスト（原田恵理子編著、北樹出版）

学生に対する評価：試験は行わない。課題提出（７０％）、授業発表（３０％）

※１　履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※２　授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。